

「高校野球特別規則（2018 年版）」改正及び制定の要点解説

日本高等学校野球連盟
審判規則委員会

(1) 22. 「タイブレーク制度の採用」〈全文改正〉

タイブレーク制度の全面採用に伴い、(1)「採用する大会」(2)「運用について」を全文改正した。

当該制度の採用により、2017 年度版 22. 「延長回数の制限」と同 24. 「引き分け抽選制度の採用」を撤廃した。

同様に、15. 「タイムの制限」(1)②、(2)②、各々冒頭の延長回に（タイブレーク開始後も含む）を追記した。

▽『2018 年度公認野球規則改正に伴う制定項目』として

(2) 27. 「申告故意四球の取り扱い」を新たに制定〈全文追加〉

今年度の規則改正で「申告故意四球（守備側チームの監督が故意四球とする意思を示し、投球することなく打者を一塁へ進めることができる）」の取り扱いが追加された。

導入に対しては、運用面での混乱や影響の有無、周知期間等について、慎重な議論を要することから、高校野球では採用を見送ることとした。

(3) 28. 「反則投球の取り扱い」を新たに制定〈全文追加〉

規則改正では、定義 38「ILLEGAL PITCH」（反則投球）から【注】が削除され、5.07(a)(1)および(2)に定められた投球動作に違反して投球してもペナルティを課すことがなくなりました。しかし、投球動作については規則で明確に定められており、遵守されなければなりません。裾野の広い高校野球では、ルールに則った“正しい投球動作”の励行・徹底が重要で、『従来どおり』とし高校野球特別規則では「投手がwindアップポジション(5.07(a)(1)およびセットポジション(5.07(a)(2)に規定された投球動作に違反して投球した場合」を反則投球として適用することとした。

以 上